

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 5年7月21日

事業所名 総合療育センター にこにこ通園

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等のスペースとの関係で適切である	○		<ul style="list-style-type: none"> 室内の広さに応じて設定や活動内容の工夫をしスペースを確保している 使わないものをその都度倉庫に収納するなどしてスペースを確保している スペースを分けたり活動の順番を工夫して安全に過ごせるよう配慮している。特に安全面には配慮している コロナ禍の感染対策の為、上限人数を減らして対応した 	<ul style="list-style-type: none"> 1日の定員は40名 密集しないよう活動毎に配置や動き、降園時に玄関が混雑しないよう対応を継続する 環境設定の工夫を継続する 感染対策の変更に応じて上限人数の検討を行う 活動の妨げにならないようにスペースを保つよう心掛けていく
	② 職員配置数は適切である	○		<ul style="list-style-type: none"> 保育士数は適正で看護師や訓練科スタッフも活動に参加している 保育を展開していく職員と、利用児のサポートをする職員が各々の役割を理解して対応する 	<ul style="list-style-type: none"> 基準は満たしており、担任以外の職員もクラスや個人の状態に合わせ補助している 今後も継続する
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		<ul style="list-style-type: none"> 通園内の表示だけでなく、活動の中でも必要に応じて絵や写真を用いている。視覚的に分かりやすく、見通しが立つように提示している 活動毎に道具の入れ替えを行い、活動内容が視覚的に分かりやすいよう工夫している 幼児用トイレのブースは親子で一緒に入れるよう広さが確保されている 段差を無くす、角にはクッション材を付ける等安全に配慮している 活動に集中出来るように壁面はシンプルにし飾りなど控えている 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの特性に合わせた環境整備を継続する 教材の充実を図る 個々に合わせた環境設定を必要に応じて行う
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		<ul style="list-style-type: none"> 安全に配慮している 視覚的な刺激の少ない環境づくりを心掛けている 玩具の消毒、清掃、整理整頓を毎日行っている 換気を常時行い、手指消毒を通園内に複数設置している 活動に応じて遊具の部屋、ホール等部屋の移動を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 整理整頓を常に心がける 消毒や清掃の継続 子供たちに合わせた安全な環境づくりの実施 毎月の安全点検の継続
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して担当業務のPDCAサイクルを実施している 常に目標を意識した遊びや活動を行い、業務上見直しや改善点がないか検討している 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に課題について話し合う機会を持ち、全員で意見を出し合う。今後もPDCAサイクルによる業務改善を進めていく 各業務マニュアルを職員全員に周知する
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> 年度末に事業所評価のアンケートを実施し保護者の意見を把握している アンケートを実施し職員間で改善点を話し合っている 保護者の意見や思いを日頃から聞くことを心掛け、表情や行動にも留意している 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートや懇談の内容を全体で共有し、改善していくことを継続する 評価の中で改善が必要なものは、迅速に対応する
	⑦ 事業所向けの自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所としての自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		<ul style="list-style-type: none"> ホームページに評価と改善内容を公開し、改善に向けて取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 今後もホームページに掲載する 引き続き保護者控室やホール等に書面にて開示する
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> 市の監査や実地指導を受け、業務改善につなげている 	<ul style="list-style-type: none"> 課題や改善点の確認を行い、職員への周知徹底を行う 定期的に自己評価を行う
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		<ul style="list-style-type: none"> 園内勉強会として職員の経験年数に合わせた研修や事例検討を行っている 内部研修、外部研修に参加しスキルアップを図っている 回覧で研修内容を周知している 	<ul style="list-style-type: none"> 感染状況を鑑み、集合研修だけでなく、オンライン研修への積極的な参加を今後も継続する 個々の職員の希望やスキルの向上に合わせ、研修の参加を計画的に行う
	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		<ul style="list-style-type: none"> 多職種が参加するカンファレンスを行い、個別のアセスメント結果を共有する。フォーマルアセスメント、インフォーマルアセスメント両方を含め、多職種で協議して支援計画を作成している 客観的に分析し、保護者の思いも考慮し計画を立てるようになっている モニタリングやアセスメントを行いニーズの把握に努めている 	<ul style="list-style-type: none"> 支援方法について、研修会の機会を確保する 保護者と具体的な目標を共有できる個別支援計画を作成する 客観的な分析を心がけていく
⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		<ul style="list-style-type: none"> 各々の職種でアセスメントを実施し、連携して発達の段階を把握している 保育士は遠城寺式やポーターシプログラム、心理士は田中ビナー、新版K式、言語聴覚士は足立式、LCスケール等を使用している 子どもの行動の背景を考慮し、支援方法を考えている 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も各職種の評価を参考にしながら支援を行う アセスメントツールへの理解を深める 	

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・各々の項目についての目標を設定し、具体的な支援内容について明示している ・カンファレンス、ミーティング等で課題や目標、方針を決め、共通理解して具体的な支援内容の設定に努めている ・それぞれの子どもに合わせた発達支援を行っている。保護者にも必要な情報提供を行いながら成長や変化点についても共有している ・保護者には分かりやすい言葉を使い、具体的な表現をしている ・保護者から家庭内の様子を聞き取り、家族支援を行っている ・保護者のアンケートやアセスメントから項目を分けて立案している 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への理解を促すために分、伝える技術の研鑽に励む ・職員間で行うケース検討の時に、表現や表記についても十分に吟味する ・ガイドラインを十分把握し具体的な支援をしていく ・本人、家族に寄り添った支援内容となるようアセスメントを行う
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画を基に、毎月の目標を設定している。また、半年に一度達成度合いを確認している ・支援計画の中からスモールステップで目標を立て実践している ・スタッフ間で共有し支援方法を書面にして関わりを統一している 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者へ分かりやすく具体的な取り組みの内容を伝えていく ・保護者とともに、目標を共有し取り組む
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で協議しながら行っている ・週に一度、一週間の活動を確認し、具体的支援の方法を打ち合わせ個々に沿ったプログラムを組んでいる ・職員同士、クラスの集団における利用児の様子に合わせた活動について意見を出し合っている ・他クラスと情報を共有している 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続する ・チームとして関わるスタッフ各々の意見や提案を取り入れたプログラムの立案を今後も進めていく
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・年間のカリキュラムを作成し、それに基づいて月案を計画している ・季節に合わせた行事、制作、遊びを取り入れ実施している ・集団における利用児の反応や遊びの発達に合わせることを目的とし、一つの活動を繰り返す中に発展性をもたせるようにしている ・活動で使用する道具の見直し、内容の工夫等を行っている ・動的な活動、静的な活動を織り交ぜ、成長に合わせて内容も工夫している ・新しい視覚教材を作成したり、子どもの興味に沿った内容を保育に取り入れたりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の種類を増やしていくことやICT機器を活用していくことを継続する ・訓練科スタッフと協働し、保護者からの意見を取り入れながら活動を工夫していく
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・個々の発達や課題に合わせた活動を想定し計画を作成している ・小集団における社会性コミュニケーション面の支援も取り入れて作成している ・集団で行う活動や個々で行う内容を支援計画に入れている ・活動の中で個々に合わせて参加出来るように工夫している 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も必要な対応や支援を適切に行う ・集団活動の中でも個別の課題に沿った目標設定を行い、保護者と確認し合って実践できるような計画を作成する
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・職員間でその日の活動内容を打ち合わせ、動きや役割分担、個別対応が必要な具体的場面等を確認している ・活動の目的を活動毎に口頭で確認するようにしている ・子どもの状態像や留意点等を確認している 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームとしての役割分担だけでなく、連携して支援体制を強化する必要がある ・今後も継続する
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・職員間でその日の振り返りを行い、記録や情報共有を行っている ・活動の目的が利用児一人ひとりにとって、どのような効果があり、どこに課題があったか等話し合っている ・職員各々の気づきを共有し設定を変更する等、次の支援につなげるようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種間での情報共有の場を適宜確保していく ・今後も各職種からのフィードバックを行い、お互いの知識や技術を高めていく ・他職種との連携の時間の確保が課題
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の記録をとり、成長点、ストレンクスを整理する中で必要な改善点も検討している ・記録を通してモニタリングや目標の立案に反映させている 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報が記載されているか、児童発達支援管理責任者を含め、職員間で確認しながら行っている ・今後も各職員が簡潔に記録できるよう改善を図りながら実施していく
	⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・月毎の目標の見直し、半年毎のモニタリングでの見直しを行っている ・在園期間に合わせて必要な計画を作成している 	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談、モニタリング報告を行い、支援計画の見直しを継続する
	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・担当保育士と看護師、訓練科スタッフが参加している。また、必要に応じて児童発達支援管理責任者、園長が参加している 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も家族が安心して地域生活を送ることができるよう、必要に応じて連携を取る ・場合によっては、オンライン会議の実施も検討する
㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・所属先、保健師との連携を図っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も適宜連携を行い、支援していく 	
㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて関係者会議や電話等で情報共有や連携を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続する 	

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	②4 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		<ul style="list-style-type: none"> 診療情報提供書による状態の把握、緊急時の対応についての把握を行っている 必要に応じて小児科の受診を勧め、緊急時の対応、搬送先等、医師や保護者を通じて確認している 必要に応じて、医師等と情報共有している 重症心身障害を有している方は、緊急時に主治医と連絡を取れる体制を整えている 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続する
	②5 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援計画での引き継ぎを行う他、必要に応じて見学の受け入れを行ったり、サポートブックや電話にて引き継ぎを行っている 必要時、保護者の承諾を得て情報共有を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、感染状況を鑑みながら必要に応じて担当者会議や見学を実施していく 電話対応が主であるが、必要に応じて訪問を行っている
	②6 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		<ul style="list-style-type: none"> 年長児のクラスでは見学、サポートブックの作成等を通して情報の共有を行い連携を取っている 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続する。就学後も保護者から要望があれば移行支援として関係者会議を開催する
	②7 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		<ul style="list-style-type: none"> 他機関の職員が参加し意見交換できる研修に参加し、現状や工夫点を知る機会としている 必要時連携を行っている 学術集会、療育研修報告会等を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も他機関の情報収集に努め、利用者サービス向上に繋げる 助言や研修の実態を職員間で共有する
	②8 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		<ul style="list-style-type: none"> 例年、近隣の保育所2園と交流保育を行っている。今年度は、コロナ禍で中止となっている 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も感染状況に応じて実施を検討する 感染対策の変更に際して実施方法を検討する。どのように交流できるか、各園と協議する
	②9 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		<ul style="list-style-type: none"> 当センター内の他部署が参加している。情報収集に努め、よりよい支援につなげていく 年一回、協議内容の共有を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続する
保護者への説明責任	③0 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		<ul style="list-style-type: none"> 連絡ノートや日々の会話を通じて、家庭での様子、日頃の状況について共有し、懇談で共通理解出来るように努力している 活動のねらいについて説明しながら課題を話すように工夫している 活動の中で発達の状況を保護者と話し合っている 保護者への声掛けを積極的に行い信頼関係を築くように努めている 他職種と連携を図りながら保護者と子どもの状態を共有できるように努めている 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で情報の共有を図る 今後も継続する 個別に話す時間や場所の確保に努める
	③1 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> 関わり方、対応の仕方について個別に提示している 保護者に家庭で実践できる方法を具体的に伝えている 通園でできるようになったことから、少しずつ家庭で取り組んでいただくようにしている 保護者の気持ちに寄り添った支援方法を検討している 保護者講座を開催している 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な内容の取り組みの方法を保護者と共有していくことを継続する 職員の勉強会にてケース検討を行い、支援方法の充実を図る ペアレント・トレーニングの研修に参加し、支援技術の研鑽に励む
	③2 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> 運営規程は閲覧できるようにしている 入園時のオリエンテーションにて説明を行っている 通園の目的や意義を伝え、それぞれに合わせた内容で説明を行っている 途中入園者についても同様に行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続する 各加算について、訓練科の医療費について等、保護者に丁寧な説明を行う
	③3 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインのねらいに添って児童発達支援計画を作成し、説明を個人懇談の中で行っている。経過や結果については確実にフィードバックを行っている 個別に説明と懇談の機会を設定し、保護者と話す時間を設けている 懇談の中で、児童発達支援計画やモニタリング報告を提示している。丁寧な説明を心がけ、保護者の同意を得ている 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続する
	③4 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> 個人懇談やクラス懇談の機会を年に数回設けている 連絡ノートや個別の相談で対応している 相談があった場合は、速やかに対応している。すぐに対応できない場合は、見通しを示し、対応している 対応方法や工夫について保護者に提案を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が相談しやすい環境作りを今後も心掛けていく 職員は相談に応じる機会の確保を積極的に行う 保護者からの相談はその都度対応し、適切に助言するように心掛けることを継続する
③5 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士が交流できる時間を確保している クラス懇談やクラスレクリエーションで交流の機会を作っている 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での食事時間の過ごし方についてのご意見を踏まえ、時間や場の工夫を引き続き行う 定期的なクラス懇談を継続する。頻度について、検討を行う 職員間での共有を図る 	
③6 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		<ul style="list-style-type: none"> 相談があればすぐに対応するよう心掛けている 相談の内容によっては園長、主任、他職種と連携し対応している 保護者からの発信が無い場合でも声掛けを行っている 必要時は保育活動終了後や電話相談で対応している 苦情を含むご意見に対しては、窓口を設け入園時に紙面で説明している 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も相談しやすい環境づくりや迅速な対応に努めていく 相談に対して適切に対応出来るよう、個人の偏った判断をせず、関係職員間で情報の確認を行うよう努める 他職種と経過等こまめに情報を共有し、必要な支援を継続的に行えるよう心掛ける 	

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	③7 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・月1回園だよりを発行し、行事や季節、健康面に関する情報を発信している	・今後も継続する
	③8 個人情報の取扱いに十分注意している	○		・事業所の個人情報に関する取り扱いを守ることを周知し、研修や話し合いを定期的に行っている ・個人情報を記載した資料は、鍵のかかるキャビネットに保管している ・守秘義務の徹底を行っている	・今後も継続する
	③9 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・言葉だけでなく視覚的に提示する、伝わりにくい場合は文書に書く、字体を大きくする等の配慮を行っている ・個々に合わせたコミュニケーション方法で関わっている	・今後も継続する ・マスク着用のため、難聴の母や子どもへのコミュニケーション支援が課題であり、個別の対応を行っている
	④0 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・あだちまつり等開催しているが、コロナ禍で招待できていない ・オープンギャラリー等により市民の方々へのセンター紹介の機会を作っている	・コロナ禍で参加できなかった。感染状況に合わせた実施方法を検討していく ・職員間で実態の共有を図る
	④1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・それぞれのマニュアルを策定し、毎月の火災訓練の他、風水害、地震、防犯等、保護者、通園児を含めた訓練を行っている ・会議の中で周知し、見直しを行っている ・反省点を挙げ次の訓練につなげている ・今年度は子どもに危害を加えるとの予告メールが全国に届いたため、より一層の安全確保と保護者への注意喚起を実施した	・保護者への周知方法を検討する ・避難訓練は、1か所に集合せず、少しずつ位置をずらしてクラス同士の距離を取るなど感染予防対策を行っている
	④2 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・毎月、様々な想定での訓練を行っている。反省点はマニュアルの見直しに役立っている	・毎月の避難訓練は園だよりにて周知を行い、変更時は各クラスにて変更点を伝えて対応している ・今後も継続する
	④3 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・入園時に保健調査票の記入を保護者にお願し、確認している ・面接時に必要であれば看護師が同席し、対応方法を確認している。必要に応じ、診療情報提供書を依頼している ・必要な児は保護者とサポートブックの作成を行っている ・子どもの健康状態を定期的に確認し保護者への聞き取りを実施している ・緊急時対応のマニュアルを作成し周知している	・今後も継続する ・医療的ケアに必要な対応方法や知識を深めていく
④4 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・診断書に基づく除去食を提供し職員間で確認し対応している ・アレルギーが軽減された場合は書類の再提出をもらい、確認を十分に行っている	・今後も継続する	
④5 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・通園内で毎日情報共有を行っている ・毎月の報告について、リスクマネジメント委員会でまとめ回覧している	・センター全体での事例は月毎に回覧し、周知している。通園内の事例については振り返りができるようファイルに保管している ・環境作りの工夫、安心安全な過ごし方や職員の配置場所など、今後も検討していく	
④6 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・虐待防止の研修を必須研修として実施し、意見交換を行っている ・事業体全体での研修や自己チェックリストでの振り返りを行い、虐待防止委員会で報告している。毎月のミーティングの中で職員同士で意見を出し合い対応について周知している	・今後も継続していく	
④7 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・身体拘束についてカンファレンス後、検討会議を行っている。非代替性・一時性・切迫性の三原則に基づき、適性であるか確認を行っている ・その在り方については、支援計画の中に掲載している ・身体拘束にあたる可能性のある行為については事前に保護者に説明し、同意を得たうえで実施、日々記録を取り、定期的な見直しをしている	・今後も丁寧な説明を行い、保護者の同意を得る ・定期的に確認を行うことを継続する。職員間で身体拘束軽減に向けた取り組みを協議する ・会議内容を記録にわかりやすく明記する	
○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。					